



楽天が値上げしたNBAリーグパス、年額では米国の2.4倍に！



日本代表が48年ぶりに自力での五輪出場を決めたり、国内プロチームが買収されて組織力が向上したりして、バスケットボール人気が急上昇している。世界プロバスケットボールの頂点である米NBA（ナショナル・バスケットボール・アソシエーション）への関心も高い。国内でNBAの試合をはじめとする映像コンテンツを配信している「NBA Rakuten」の「LEAGUE PASS（リーグパス）」が値上げされることになった。

円安をはるかに上回る値上げにファン騒然

円安だけに値上げもやむを得ないが、それを勘案しても楽天の値上げ幅は大きく、ネット上ではNBAファンからの不満の声が多数上がっている。NBA Rakutenが提供するリーグパスの月額料金は従来の2970円から4500円と、約1.5倍の値上げに。

一方、NBAのリーグパス（プレミアム）も、2023～24年シーズンに19.99ドルから22.99ドルに値上げされる見通しだ。これを日本円に換算すると2964円から3409円へ値上げされることになる。NBA Rakutenとの差額は、従来の6円から1091円に広がる。これまでは米国価格とほぼ同額だったリーグパスが、一気に1000円以上も割高になるのだ。

値上げ前の料金比較（1ドル＝148円34銭で換算）

月額シーズン（年間）

【日本】楽天NBAリーグパス

2,970

13,200

【米国】NBAリーグパス（プレミアム）

2,964

19,276

差額

6

-6,076

年間リーグパスは米国の2.4倍に

深刻なのはシーズン（年間）リーグパス。NBAは129.99ドル（1万9276円）から149.99ドル（2万2242円）へ値上げされる。従来のNBA

Rakutenシーズンパスは1万3200円と米国より6000円以上も割安だったが、2023～24年シーズンは販売されない。月間プランを12カ月契約するしかなくなり、料金は年間5万4000円に跳ね上がる。値上

げ後のNBA年間リーグパスの2.4倍となり、3万1000円以上も割高だ。

値上げ前の料金比較（同）

月額
年額

【日本】楽天NBAリーグパス
4,500
54,000

【米国】NBAリーグパス（プレミアム）
3,409
22,242

差額
1,091
31,758

NBAリーグパスは米国以外でも契約可能だが、日本、イラク、イラン、北朝鮮、キューバ、コソボ、コンゴ民主共和国、シリア、ジンバブエ、スーダン、ソマリア、中国、ニカラグア、ベネズエラ、ベラルーシ、リビア、ロシアでは契約できない。つまり日本ではNBA Rakutenを契約するしかNBAの全試合を視聴する方法はないのだ。

ただ、楽天モバイルで「Rakuten最強プラン（データタイプ含む）」を契約しているユーザーは、10月20日からリーグパスの利用が無料に。楽天は携帯電話事業で巨額の赤字を計上しており、回線契約獲得のために人気上昇しているNBAのコンテンツを利用したことになる。

自社サービスの利用者に無料提供するのはともかく、それ以外のユーザーに米国のリーグパスよりもはるかに高額な料金を設定する手法がNBAファンの反発を招いたようだ。

文：M&A Online

関連記事はこちら・地域一体で「福島ファイヤーボンズ」のB1入りを目指す！西田創福島スポーツエンタテインメント社長に聞く・楽天が携帯事業で苦戦しているのは「平成のビジネス感覚」だったから